● 研究演題４

非肥満群と肥満群における高血圧、高血糖、脂質異常の発症と生活習慣行動との関連についての検討

群馬大学医学部保健学科検査技術科学専攻　４年　小澤愛奈

【目的】

非肥満者において生活習慣行動は高血圧、高血糖、脂質異常の発症にどのように影響するか明らかにすること。

【方法】

解析には、群馬県の国民健康保険の特定健康診査データを用いた。対象は、2015 年の特定健診受診時に高血圧、高血糖、脂質異常非該当かつ 2020 年に再度受診している人である高血圧、高血糖、脂質異常の該当は、国民健康・栄養調査の基準に従い定義した。高血圧、高血糖、脂質異常それぞれの該当を目的変数、生活習慣行動を説明変数、共変量に性別と年齢を用いてロジスティック回帰分析を行った。本研究は所属大学の倫理委員会の承認(HS2023-137)を得て実施した。

【結果】

2015 年に健診を受診した 155,690 人のうち、上記の条件に該当した 15,440 人に対して解析を行った。非肥満群における高血圧該当では、喫煙、20 歳から 10kg の体重増加、飲酒習慣が独立した危険因子として認められた。非肥満群における高血糖該当では、喫煙、20 歳から 10kg の体重増加が独立した危険因子として認められた。非肥満群における脂質異常該当では、20 歳から 10kg の体重増加、朝食欠食が独立した危険因子として認められた。

【考察】

非肥満者においても、高血圧、高血糖、脂質異常の発症の全てに有意であった 20 歳から 10kg の体重増加を中心に、発症に有意な危険因子と示された生活習慣行動を改善する必要があると考えられる。

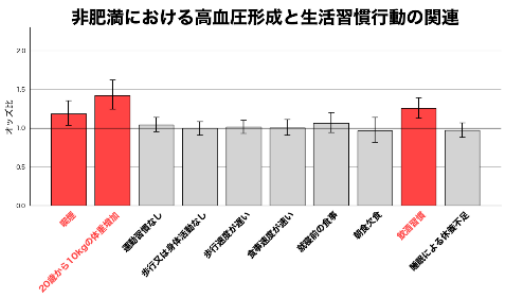

図 1. 高血圧形成と生活習慣行動の関連

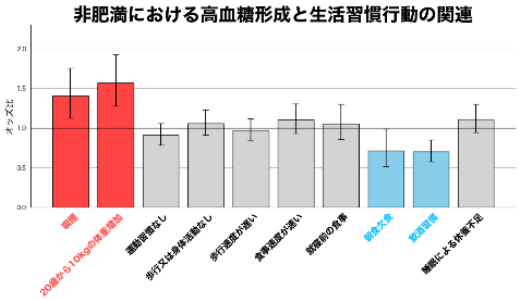

図 2.高血糖形成と生活習慣行動の関連

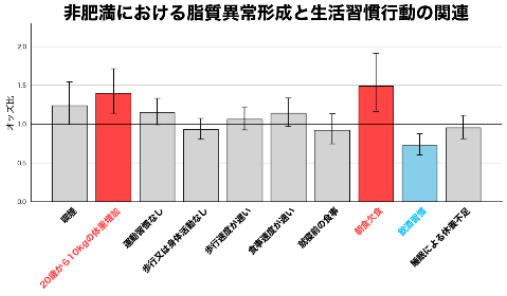

図 3. 脂質異常形成と生活習慣行動の関連